

邪悪な策動をひっくり返し、正しい時代をつくろう！

2013 年度茨城県平和委員会大会 6 月16日(日)開催される



グリーンパレスで開催された、2013 年定期大会は、代議員等 63 人の参加で成功裡に幕を閉じました。

地域組織の数でも、活動の内容でも、全国に誇れる取り組みが進んだ！！

水野代表理事は挨拶のなかで、「この一年茨城県平和委員会は、地域に根ざした運動が進展した。取手では『おおぞら平

和の会』が結成され、仲間が着々と増えつつある。」「千名を越える会員は、草の根の運動を原点に、地域組織が自主的に運動を計画し、既存の組織や団体と連帯してとりくんでいる。」「茨城の地域組織の数は日本一です。」と述べ、「この力で憲法『改定』の策動や原発再稼働反対、普天間基地の撤去、TPP や消費税増税反対のとりくみを進めよう！」と訴えました。

反動的な潮流も我々の頑張りで

跳ね返せる！！

来賓として参加した、千坂純日本平和委員会事務局長は、「本当に多彩な運動を年間を通じて繰り広げている、これは本当に全国にとって、すごい平和委員会だ。そういう地域の草の根の活動を進めたい」「衆議院選挙で自民党が圧倒的多数を占め、もう改憲派、反動派が国会の多数を占めている状況だが、矛盾が噴出ししている。この反動的な逆流は、私たちが頑張れば、跳ね返すことができる」と力強く述べました。さらに「平和委員会の力を大いに発揮し、安保の実態を語って、憲法『改正』の策動を跳ね返していくためにも、仲間を広げよう」と訴えました。

原発輸出は絶対に許せない！！

同じく来賓の小松豊正・日本共産党石岡市議は、「私も石岡平和の会の一員です。憲法をめぐっても大変重大な状況ですけれども、改めて非常に怒りを持つのは『原発商人 安倍政権』が『メーカーとの二人三脚で、世界に2兆円売り込む』ことです。これが原発の大事故を起こした国のやることかという思いです。福島県民の苦しみを解決するの目途が立っていないか、『原発立国』へまい進する安倍政権の姿には怒りを感じます。」と述べました。

ともに進みましょう！



2013 年度 茨城県平和委員会役員

【代表理事】

水野 秧一郎（阿見） 植田 金雄（石岡）
伊達 郷右衛門（内原・友部）

【事務局長】

木村 泉（鹿行）

【常任理事】

堀江 仙三（美和・緒川） 加藤 岑生（東海）
人見 忠男（ひたちなか） 川又 俊水（那珂）
小川 弘二（水戸西） 中山 弘子（花だいこん）
柳岡 修二（内原・友部） 池田 征一（笠西）
小久保 荘一（鹿行） 風間 道夫（鹿行）
小沼 一彦（潮来市職） 山口 由夫（石岡）
梅沢 優（百里） 近藤 輝男（土浦）
又川 速雄（つくば） 岡本 弘吉（つくばみらい）
根本 和彦（ふじしろ） 前田 清（下館）
叶谷 正（ゆうき） 金子 勉（さかい）

【理 事】

北 茨 城：穂積 建三・藤田 稜威雄
美和・緒川：山口 孝
日 立：岩間 雅美 おおみや：小野瀬 寛
大 田：福田 亘男・篠原 睦美

東 海：川崎 勝男・大川 眞一
ひたちなか：大和田 喜市
みとみなみ：岡野 勝・小室 和久
水 戸 西：小瀬 信司・松原 日出夫・黒木博之
伊藤昭子・田中 重博
花だいこん：菊池 浅子 はばたき：江尻 大祐
内原・友部：飯村 一雄・稲田 敏之・小林 和栄
笠 西：田中 詔・丸山幸春
鹿 行：星野忠興・関口 正司
潮来市職：小沼 政範 池 貝：小川 隆
石 岡：高栖 敬・深町 俊夫
百 里：栗又 衛
土 浦：岡田 安正・古沢 明
阿 見：中山 熙之・宗田 和子
つくば：黒澤 一也・河和 広
守 谷：斉藤 哲・丸町 芳夫
つくばみらい：小川 三也 茎 崎：軽部 英司
美 浦：長山 静雄 ふじしろ：鈴木 清
稲 敷：山口 清吉・玉造 修
取 手：長谷山 世美子・花沢 楓
下 館：小林 清 ゆうき：前田 誠治
さかい：染谷 卓勇 古 河：井上 忍
ご か：青木 不二子 牛 久：宮澤 利春
おおぞら：堀江 裕一郎 下 妻：青木 勇
【会計監査】 椎名 定（東海） 羽鳥 茂（水戸西）

平和新聞

2013 年 6 月 25 日（火曜日）

2020 号（毎月 5,15,25 日発行）

1950 年 12 月 16 日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話 03(3451)6377 FAX 03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版

No. 658

2013/6/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

大会アピール

地域・職場で共同の輪を広げ、 平和を守り育てる草の根からの運動を進めよう

私たちは今大会の討議の中で運動の基本を確認し、今年度の取り組みの重点を「平和にとってもっとも大切な憲法を守り生かす」「沖縄の普天間基地撤去・オスプレイの配備拒否」「核兵器の廃絶と原発政策からの脱却」をあげました。

「異次元の金融緩和」と「財政出動」で「デフレ脱却」としたアベノミクスがたった数ヶ月で失速しました。そもそも政策そのものが間違っていたアベノミクスは、円高と株価の上昇によるギャンブル経済にほかなりません。国民にとっては、ガソリンや電気・ガス代をはじめ、食品などの物価の値上がりと長期金利の上昇だけが残し、笑いごとではすまされません。これに消費税の増税があるなら国民生活は破たんしかありません。

憲法「改正」の動きも急になっています。改憲勢力は、本丸の9条「改正」は国民の支持が得られないとして、憲法改正手続きである96条を「改正」しようとしています。この96条の「改正」には、9条の是非を超えて反対の声が起こっています。「改正手続き」は、単なる手続き論ではなく、そもそも「憲法とは、国民が権力をしばるものである」という、歴史的に確立された「立憲主義」を根底から突き崩すという危険があり、許すわけにはいきません。

また安倍首相は成長戦略のなかに「原発再稼働」と「原発輸出」を位置づけるなどの暴走を始めています。私たちは全国の脱原発のたたかいと連帯し、地域や地元東海の人たちとともに東海第二原発廃炉のとりくみを進めます。核兵器廃絶のとりくみもさらに強化する必要があります。

沖縄県総意の「オスプレイ拒否」「普天間基地の辺野古移設反対」の声を無視し、安保・基地被害を沖縄に押し付けることは、日本の民主主義を踏みにじる暴挙です。米軍基地は国外撤去しかありません。

憲法を改悪し、日本を「戦争のできる国」にしようという点でも、原発政策の推進、軍拡、消費税の増税、TPP参加、医療・福祉の切り捨て、教育の軍国化など、国民生活の破壊につながるあらゆる問題の根源には、日米安保条約があることが、かつてなく浮き彫りになっています。

私たちは、今後も憲法を守り・生かし、基地と日米安保条約をなくす運動を大きく前進させ、さらに沖縄と茨城を結ぶ平和運動を構築していきます。

地域や職場で、草の根の運動を展開し、平和を作る大きな共同の輪を広げていきましょう。

2013年6月16日 2013茨城県平和委員会大会

各地で夏の平和パネル展を企画！

石岡平和の会

《原爆と平和写真展：ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展》

○と き：7月20日～31日

○ところ：小美玉市四季文化館

・・・・・・・・・・

○と き：8月1日～15日

○ところ：石岡市城南公民館

内原・友部平和の会

《戦争と平和展：戦時下の子供、地域の戦跡、原発など》

○と き：7月30日～8月11日

○ところ：笠間市友部図書館ギャラリー

※ 県内各地で毎年取り組まれる「戦争と平和展」の企画を事務局までお知らせください。



映画『ひろしま』東海村上映会

○と き：7月5日（金）9時50分開場

○ところ：東海文化センター（東海村船場768）

○チケット料金（学生以下は無料）

一般（前売り） ¥1,500 （当日） ¥1,700

ペア（前売り） ¥2,800 （当日） ¥3,200

・・・・・・・・・・

上映 (1回) 10：15～12：00
(2回) 18：00～19：45

12：00～13：00 肥田 舜太郎さん講演会

14：00～15：30 堀潤さん×村上村長×小林一平さん
三者講演会

15：40～16：40 堀潤さん講演会

【問合せ先】加藤（080-8830-8870）小林（090-8961-5019）



【シリーズ】わが街・わが会員

潮来市／大手山 茂さん（鹿行平和委員会）

私の残りの人生の

出発点は＜3・11＞



1949年生まれ。日本の最後の戦争は1945年に終結したと教えられました。そんな幸運な時代に巡り合えたことを素直に喜んで育ちました。

朝鮮戦争の惨状も社会科の授業では「それを契機に日本経済は立ち直った」ことばかり強調されました。全面核戦争の瀬戸際まで行ったとされる「キューバ危機」、「米ソの核実験」などで私は世界の情勢に疑念を持ち始めました。

しかしベトナム戦争時には「米国＝善、ベトナム＝悪」というマスコミの報道を鵜呑みにしていました。高校時代たまたま見学に行った他校の文化祭で、同年代の生徒が自前の資料を前に「アメリカのベトナム戦争における侵略的役割」について熱弁をふるっているのを見てとてもびっくりしました。

70年代の日米安保反対運動の時は大学生。街頭デモに参加しないのがおかしい、という時代でした。運動の高揚と引き潮。議会制民主主義への信頼を一度も持たずに20代は過ぎ去りました。

30代以降は偶然の成り行きで鹿嶋（当時は鹿島）へ。家族も形成し、一見平和な日々でした。そんなある日東京電力福島第一原子力発電所で事故が起こったのです。1999年東海村JCOの臨界事故でも震え上がりましたが、それもないつか忘却の彼方に追いやられていた矢先のことでした。それから現在まで自分の無知と軽薄さを思い知らされる毎日です。

「憲法改悪」の具体的な動き、原発の途上国への売り込み、貧富の格差の広がりなど、課題は盛りだくさん。目も眩むような無力感にとらわれることも。まず心ある人々が手を携えることから始めましょう。

＜3・11＞はそんな決意を自分の残りの人生にかける大きなきっかけとなりました。